

クイーンステークス

父か母父に芝 1200m 適性の高い血を持つ馬が走りやすいレース。

2020 年 11 番人気 1 着のレッドアネモスは母父がサクラバクシンオー。
2 着ビーチサンバは父がクロフネ。

サクラバクシンオー、クロフネともに芝 1200m の G1 勝ち馬を複数出した種牡馬。

父クロフネは 2017 年にもアエロリットが 1 着。
2016 年に 11 番人気 3 着のダンツキャンサーも母父がサクラバクシンオー。
2018 年 1 着ディアドラ。2019 年 1 着ミッキーチャーム。

スプリント適性と洋芝適性が高いダンチヒ系も当レース向き。
9 番人気 3 着カリビアンゴールドは父か母父がダンチヒ系。

戦歴もスピード指向。小回りの流れに無理なく追走する能力と、
スプリント戦のようなダッシュ力、加速力が問われやすいため、
芝短距離向きの血統、実績馬が走りやすい。
芝 1400m 以下実績。前走 1600m 以下を経験している馬が有利。

二桁人気で馬券になった 2016 年 11 番人気 3 着のダンツキャンサーは
前走 1400m のオープン特別で連対。2000m 以上未勝利。
1500m 以下のみで勝っていた馬。

2015 年 7 番人気 1 着のメイショウスザンナも芝 1200m の準オープン勝ち馬。

逆に、2000m 以上の重賞実績が評価されて
人気になっているタイプはさらに信用できないレース。

前走ヴィクトリアマイル組は 21 頭出走して 8 頭が馬券に。
格上に加え、延長ローテが有利。
複勝回収率も 90%を越えているので人気以上に走る程度恵まれてもいます。

本命はメイショウミモザ。

ハーツクライで母はメイショウベルーガ。本質は中距離馬。

スプリント経験が有利になるレースであること。

前走より追走ペースが緩くなるのも強調材料。

ウォーターナビリアは父が非根幹距離の欧州指向の馬場得意なシルバーステート。

母父はスプリント実績馬。

テルツェットも母父ダンチヒ系。札幌の当レースも向く馬。

マジックキャッスルは母がロベルトとスプリント実績残すフェアリーキング。

今の馬場にも向きます。

ファーストフォリオは母がシーザリオ。

中距離指向強く、1200m は合わず。

距離延長も大歓迎の一族でこの条件は向きますし、1200m 経験も結果的に有利。

アイビスサマーダッシュ

アイビス SD は JRA の芝中距離競馬とは真逆ともいえる能力の方向性が問われる舞台。

サンデー系が得意とする「伸び」を生かした競馬とは真逆のパワーと持久力が問われます。

サンデーの伸びを薄めた配合馬が強いコース。

本命はヴェントヴォーチェ。

サンデーサイレンスを持たない馬。

父タートルボウル。欧州型ノーザンダンサー系のマイラーはスプリン力は総じて高いです。

母父ディスタントビュー。日本での産駒にキーンランドスワン。高松宮記念で 2 着。新潟直千で行われる驍進特別も優勝。JRA のスプリント G1 でトップレベルの能力と直千適性を示した馬。

母母父はエーピーインディ。アメリカのスーパーサイヤー。

サンデー系産駒よりもスピード持続性能に優れた馬を多数輩出。

スーパーサイヤーを母系に持つことで重賞を勝つためのスケールが強化されているのも強調材料。

母系からスピードと持続力を強化され、伸びの要素はない配合。当レース向きの配合。

相手妙味はライオンボス。

「亀谷競馬サロン」のキムラさんのコラムにも書かれていましたが、

開幕週の直千は最内枠を引いた場合、内ラチを走れば中枠の馬よりも有利。

当レース実績、58 キロでも減速しない実績もある馬。

坂井騎手なら今日の競馬を参考にして乗るでしょう。

トキメキ、マウンテンムスメは当レース、スプリント G1 にも実績残す

アドマイヤムーン産駒。母父も非サンデー系。

パーティナシティも血統はピッタリでこの人気なら少々。